

# Helena Fourmont

出生地：フランス、パリ

出身地：エクス・アン・プロヴァンス

在籍校：パリ国立高等美術学校

ファッション関係に進むつもりで予備校に通っていたが、その時に出会った  
アートの分野に興味を持ち、アーティストを目指した。

彼女にとってアーティストであることは、単なる仕事以上に、生き方そのもの  
なのである。

## 【作品のコンセプト】

彼女は普段、木を彫り、その上に着色することで作品を作っている。

彫る、引っ搔く、削る……などの彫刻的な手仕事に興味を持ち、次第に木の有  
機的な偶然性を発見していった。それらが彼女の作品にとって不可欠な部分と  
なっている。

彼女が興味を持っている「素材を引き算する」というジェスチャーにとって、  
木は最も首尾一貫した媒体である。木が持つ線、節、様々な色や質感は、彼女  
に新しいレパートリーとパレットを与えるので、何も加えなくても、彼女は木  
から素材を引き出すことができるのである。

このような興味から、日本では木版画、様々な道具、そして様々な和紙につい  
て学び、作品に落とし込んだ。

## 【展示作品の技法やテーマ】

今回の展覧会では、木版画とリトグラフを展示する。

日本滞在中に様々な訪問先でディテールや刻印、木の幹などの写真を撮影し、  
それらを使って制作した。

木の人為的切断による縦横の跡に興味を持っており、これらは異なる立面図を  
生み出す。これらはもはや自然な形ではない断片であり、彼女の作品にとって  
不可欠な”人の手により新たに木の有機的な偶然性が見出されるプロセス”と類  
似する。よって彼女の作品のインスピレーションとなった

また、ドローイングにも興味を持ち始め、今後の制作にも活かす予定。

# Nicoletta Lovo

出生地：イタリア、ヴィチエンツァ

出身地：ミラノ

在籍校：ミラノ工科大学 デザイン専攻

今回の交換留学プログラムにおいて、彼女は顔彩や金色のアクリル絵具などによるペインティングを用い、人間と自然とのつながりを祝福する作品を制作した。

## 【作品のコンセプト】

この春日本に来た彼女は、日本人の植物や大地などへの距離の近さに強く興味を持った。人々が足を止めて桜を眺めている姿や畳の上で正座する姿がその例である。日本人の自然に寄り添いつつ敬意をはらう姿から、彼女が思い浮かべたのはサンスクリット語の「Soham」という考え方である。

「Soham」とは古くから伝わる大宇宙や神との一体化を意味する言葉である。訳すならば「I am / It be」となり、自分が宇宙の一つであるように宇宙もまた私の一つであるということを表す。彼女はイタリアにいた時、この「Soham」の考え方に出会った。そして、日本人の自然に対する姿勢に触れたことをきっかけに再度この精神性を想起したことが今回の作品の起点となっている。

もともと動物や自然に興味があった彼女は、日々さらに自然に敬意を払うようになった。彼女は、自分も自然の一部であり、出会う人々も自然の一部であると感じるようになり、自身を自発的かつ平和的に受け入れる気持ちを育むことが大切だと考えている。

彼女は日々の暮らしの中で自己を顧み、成長し続けることを大切にしている。彼女のアートワークは日々自己の成長を考える中で得た、人間と自然の繋がりに対する気づきや「Soham」の精神性を反映したものとなっている。

## 【展示作品の技法とテーマ】

今回の作品は、5年間デザインを勉強してきた彼女にとって初のアートワーク作品である。

自然（nature）と人間のつながりをテーマに制作されており、顔彩やアクリル絵具を使用し、巻物から着想を得た横長の構図で表現されている。自然の要素から「animal（動物）」「plants（植物）」「elements（環境）」を抽出し、人間が自然へと姿を変える様子を描くことで、人間と自然、人間と宇宙の融合を表現している。

# Ilaria Andreotti

出生地：フランス、パリ

出身地：フランス、パリ/アメリカ合衆国、ジョージア州アトランタ

在籍校：パリ国立高等美術学校

“To find the object in the package, or the signified in the sign, is to throw it away.”

Roland Barthes, *The Empire of Signs*

## 【作品のコンセプト】

彼女は言葉を基盤に作品制作を行なっている。

私たちは人と関わるなかで、言葉が不十分であるが故に、お互いを理解し合えなかつたり、物事を明確に説明できなかつたりする。

彼女はそういった事態を危惧し、日常の中で感じたことをはじめとする重大なテーマにも作品を通して向き合っている。

彼女にとって作品とは、自身の思考が同時に存在できる場所のようなものである。

彼女は自身の中で混在する政治的問い、実存的問い、哲学的問いなど、言語化し難い物事について考え続ける。

身の回りのすべてのことを振り返り、消化する。そこからさらに考察し、何かを創造する。そうすることで彼女は社会や人々との関わり方を探っているのである。

## 【展示作品の技法やテーマ】

この作品は彼女の思考を整理整頓する道具とも言える。日頃興味のある物や形を集め、それらを分解し、分析する。彼女にとって分析とは、比較することや、展示することである。計画的に、あるいは本能的に、その考察はしばしば物語的に表される。すべてがゲームのように並べられ、鑑賞者が手に取って組み立てたり、遊ぶことができる。

コントロール、パッケージング、言語、今日のストーリーの氾濫、これらは常に彼女の頭の中や作品の中にあるアイデアの一部である。